

平成21年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「チャレンジ！とくしま賑わいプロジェクト」		
(2) 実施団体名	「チャレンジ！とくしま賑わいプロジェクト」推進協議会	(3) 対象地域	徳島県徳島市
(4) 代表団体名	徳島県商店街振興組合連合会	(5) 推薦団体名	徳島県、徳島市

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	地産地消型 屋台等を活用しての賑わい創出事業ならびに担い手育成	
	実施主体	担当: 徳島県商店街振興組合連合会青年部、NPO法人TOKUSHIMA雪花菜工房、徳島商工会議所、(株)あわわ 当初提案により予定していた計画	
	実施内容、実施結果	新町川ボードウォークに、パラソルショップや屋台を定期的に出店することにより新たな商店街の創出を図る。また、農商工連携によりブランド力のある地元食材の活用を通じて、徳島ならではの商品「新徳島ブランド」を積極的に開発していく。屋台の出店者は広く求め、この活動から経験を積み重ね、将来中心市街地で新規出店をしたいという意欲のある若手を「(仮称)徳島まちづくり会社」が母体となり、情報提供等を通じて人材育成、出店の支援等をしていく。  ・阿波赤牛(すだち牛)や阿波ポークなどの徳島の食材を活かした新徳島メニューを創作する。 ・地産地消型を基本とする食の提供を恒常的に開催し、食育による健康増進活動と併せて、賑わいの創出を図ることで、中心市街地商店街の活性化を図る。 ・また、平成21年度後期NHK連続テレビ小説「ウエルかめ」が放映されることから、徳島への来県者の増加が期待される所であり、この取組を通じて、既に「阿波尾鶏」が一大ブランドとして確立しているが、これに続くものとして「阿波赤牛」(すだち牛)や「阿波ポーク」などの創作メニューを全国に発信し、地域ブランド化も目指す。 ・(株)あわわの協力により若者タウン誌「あわわ」において、同事業についての情報発信を行い、消費者ニーズの適切な把握や地産地消推進への消費者の積極的参加を促す。	実際の取組内容及びその結果  ・実施内容: パラソルピアガーデンの開催および試食会 ・実施時期: 平成21年7月29日(金)18:00-22:00(第1回パラソルピアガーデン)、9月11日(金)19:00-21:00(第1回ボードウォーク屋台出店による市場調査)、9月25日(金)19:00-21:00(第2回ボードウォーク屋台出店による市場調査)、10月2日(金)18:00-21:00(第2回パラソルピアガーデン)、11月9日11:00-13:00(第3回ボードウォーク屋台出店による市場調査)、11月21-22日9:00-15:00(JA東徳島でのイベントでの市場調査)、サテライト教室での市場調査3回(11月27日、12月16日、12月22日)、12月31日(木)20:00-25:00(年越しカウントダウンイベントでの市場調査)、平成22年1月10日(日)8:30-12:00(ボードウォーククリーンアップ事業での市場調査) ・実施場所: ボードウォーク、商店街内 ・取り組みの結果: 【集客数およびアンケート調査対象】 パラソルピアガーデンを2回開催し、第1回集客272名、第2回202名の集客/ボードウォーク屋台出店による市場調査(第1回・2回)では各40名に実施/上記12回の市場調査としてアンケートを実施 【実施内容・調査結果および今後の展開】 パラソルピアガーデンなどのイベントにより中心市街地に集客を行い、参加者にアンケートを実施。その際、「新徳島ブランド」として、NPO法人雪花菜工房、東北飯店と共同開発した①阿波赤牛のローストビーフ、②米粉を使った中華名大根餅、③米粉を用いたカステラ、④すだちアイスの商品の市場調査を実施。アンケート結果により、好評を得た「すだちアイス」の商品化を決定。但し、9月末、ボードウォークを運営する東船場商店街振興組合より、飲食店舗の利用により木製のボードが傷むことから、飲食店舗の出店を控えて欲しいとの通達があり、現在、ボードウォークでのパラソル屋台出店計画は休止状態になっている。そのため、「新徳島ブランド」開発計画は、パラソル屋台によるメニュー開発から、店舗販売可能な商品開発へと方針を転換し、サテライト教室などボードウォーク以外での市場調査を行った。取り組み④で生まれたまちづくり会社「まちづくり役場徳島」と連携して、平成22年2月8-10日に東京で開催されるスーパーマーケットトレードショーに出展する予定である。

取組②	空き店舗を活用したサテライト教室の開設	
実施主体	担当: 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部政策シミュレーション研究室、徳島県、徳島県商店振興組合連合会青年部	
実施内容、実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>空き店舗を活用したサテライト教室において、専門者(徳島大学)を中心に、シンポジウムや公開出前講座を開設し、若者(学生サークル活動など)の「まちの寄所」としてまちの賑わいに一役を担うとともに、人材育成に努める。まちづくり協働の意識啓発となるエコロジー活動や食育による健康増進活動などの場と活用して、地域住民のまちへの愛着心、まちの活性化活動の気運を盛り上げる。</p> <p>・徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部政策シミュレーション研究室と徳島県を中心に公開出前講座、シンポジウム等を行うことで、地元商店街の活性化、賑わい創出、地域コミュニティ結びつきの核となる役割の一翼を担う。</p> <p>・中心市街地では空き店舗が多くみられるが、この解消を図っていくためにも、空き店舗をサテライト教室の場に活用して、元気をもってチャレンジする人材の育成を図ることも企図。</p> <p>・取組④の「まちづくり会社」を担う人材育成を図っていくことも企図。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>開催内容: 商店街内の空き店舗を利用したサテライト教室          実施時期: 全15回予定。平成21年1月31日段階で11回開催(平成21年8月23日、9月27日、10月16日、10月17日、10月23日、10月30日、11月27日、12月16日、12月22日、平成22年1月15日、1月23日開催、2月13日、2月20日、2月26日、3月5日開催予定)          実施場所: 籠屋町商店街内空き店舗、東新町商店街内空き店舗、新町小学校、第2回は徳島子ども交通公園のイベント会場にて実施</p> <p>取組の結果: 空き店舗の収容人数は約50名。これまで開催した10回のべ参加人数は400名。交通イベント会場で実施した第2回については、約150名の参加があった。講師は、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部政策シミュレーション研究部の教員、海外留学生による公開出前講座、徳島出身のスポーツ選手(野球、ラグビー)、研究者(都市計画)、商店街メンバー(コーヒー講座)により行われた。参加者は、徳島大学関連が講師の際は学生中心であるが、スポーツの際にはラグビー、野球愛好者などが参加するなど、これまで中心商店街にあまり足を向けなかった方が、中心市街地に足を運ぶきっかけとなった。大学のゼミ中心の際は20名程度の参加者であるが、ゼミであっても「地方都市のバス交通」といった一般にも関心の高いテーマの際には50名の参加者があった。他の一般向けテーマの場合は毎回40名程度の参加者が集まった。</p> <p>空き店舗を用いたサテライト教室は、協議会メンバーである徳島市の平成22年度事業「まちなかキャンパス」事業として継続する予定。また、その際、取組4で生まれたまちづくり会社「まちづくり役場徳島」が大学や講師とのコーディネートを請け負う予定である。</p>
取組③	「バスに乗ろう、交通エコライフ」キャンペーンの実施	
実施主体	担当: 徳島県商店振興組合連合会青年部、徳島県、徳島市、徳島バス(株)、徳島大学大学院	
	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>中心市街地商店街と公共交通機関がタイアップし、公共交通機関の利用促進を図る。また、家族連れやお年寄りを対象とした交通エコライフキャンペーンを行い、公共交通機関の親しみと魅力を伝える啓発活動を行う。</p> <p>・徳島県では「環境首都とくしま憲章」を掲げ、環境にやさしい町に向けた取組を進めているところであり、また、県・市としても公共交通機関の利用促進を図ることを進めているところである。</p> <p>・公共交通機関を利用しての来訪者には商店街にて一定の特典サービスを行うことを通じて、中心市街地への来訪者の増加を図っていくとともに、公共交通機関の利用促進も図っていく。</p> <p>・平成21年度後期NHK連続テレビ小説「ウェルかめ」が放映されることから、徳島への来県者の増加が期待されるところであるが、このような観光客の二次交通の足を確保する上でも公共交通機関は重要となってくるが、公共交通機関と中心市街地は直結していることから、中心市街地にも来訪してもらうことで、中心市街地の活性化を図る。中心市街地には徳島の名産が豊富に揃っているが、このような取組を通じて、また取組①とも連動して、今後も徳島来訪の際には中心市街地に寄ってもらえるような「ファン、リピーター」を生み出すことも企図。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容: 公共交通利用促進キャンペーンの実施          実施時期: 平成21年9月27日(日)10:00-15:00          実施場所: 徳島市交通公園</p> <p>取組の結果          当日イベントには約1200名が参加した。中心市街地への集客を企図し、本気エコクーポンを2000部作製。72店舗が公共交通促進キャンペーンに賛同し、クーポンに協力してくれた。</p>

<p>(6)実施した取組の内容</p>	<p>実施内容、実施結果</p> <p>・「エコ×エコ+ヘルス」情報発信ツールの構築 公共交通は「環境にやさしく(エコ)、経済的(エコ)で、健康(ヘルス)にも良い」ものである。徳島ではマイカー利用率が極めて高いが、公共交通機関の良さを認知してもらうための取組を行う。このような取組を行うことで現在はマイカーで郊外の大型店舗へ流出が進んでいるが、中心市街地への来訪者を増やすことを企図している。また、特に徳島においては糖尿病率が全国一などの状況が生じているが、これはわずかな距離でもマイカー移動することがその原因の一つではないかとされているところである。 そこで、具体的には、「環境貢献度」、「家計貢献度」、「健康増進度」を算出し、その効果を測定し、学術的な研究も加え、その結果を広く流布させることで、公共交通利用の促進を広く促す取組を行う。(徳島発、四国や全国の先駆け事例の創出を目指す。)</p> <p>(内容のイメージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用促進に関する様々な情報発信ツール</li> <li>地域資源(地元生産物)と公共交通機関(バス)の魅力を同時に体感できるバスツアーを企画。</li> <li>公共交通利用者に移動経路、移動経費を投稿してもらい、公共交通利用による環境対策効果(CO2削減量など)、経済(家計)効果(マイカー利用時に比べどの位得か)、健康増進効果の検証に資するものとする。</li> <li>イベント時に市内一律100円バスの運行や100円駐車場の設置を図ることを検討しており、県内の方々にも、また、来県者は土地勘がないので、地場商店や地場産品が揃っている市内商店街への来訪の機会を逃していたとも考えられるため、この様な取組を行うことで、バスを利用して市内での周遊性を増すよう取り組む。</li> </ul>	<p>実施内容:徳島バス、徳島市営バス、小松島市営バスと連携して、営業区間内どこまで行っても一律100円のバスを運行 実施時期:平成21年年9月27日(日)および平成21年11月3日(祝)の2回</p> <p>取組の結果: 利用促進効果(25%増)はあるものの減収(37%減)という結果であった。減収という状況では、すぐに100円バスを実施するのは難しいが、アンケート調査結果から100円バスの認知度が低いという結果が出ている。今回は、初めての試みであったために、100円バス実施の為にバス会社との交渉に時間がかかり、広報が遅れて事業実施となったため、広報戦略を工夫することで、一層の利用増が見込め、減収幅を縮める可能性が残されている。そのため、今後は、県と市に働きかけ、100円バスの社会実験を継続できるように働きかけ、100円バス実施に向けて進んでゆきたいと考えている。</p> <p>【当日バス利用状況】 第1回:前年度対象日約8000人→社会実験日約10000人(約2000人アップ) 第2回:前年度対象日約10000人→社会実験日約12500人(約2500人アップ)</p> <p>【バス事業者の現金支払料金収入】 第1回:前年度対象日160万円→社会実験日101万円(約59万円ダウン) 第2回:前年度対象日201万円→社会実験日126万円(約75万円ダウン)</p>
<p>(6)実施した取組の内容</p>	<p>取組④ 「(仮称)徳島まちづくり会社」の設立準備</p> <p>実施主体 主担当:徳島県商店振興組合連合会青年部、若手企業家、学識者など</p> <p>当初提案により予定していた計画</p> <p>まちづくりの効果の実践に不可欠な分野横断的・継続的な多様な主体の参画を実現する新組織を設立する。</p> <p>・地元住民のみならず観光客も集まる中心市街地の賑わいは、消費者とのダイレクトな接触を生む場であり、大きなテスト市場とみなすことができる。また、事業連携により事業者サービスのニーズ調査の場ともなり、それらを活用した事業の収益をまちづくりに還元するビジネス展開を検討する。</p> <p>&lt;検討収益事業&gt;</p> <p>①中心市街地の活性化に向けたNPO団体や個人ボランティアと、社会貢献を目指す企業・事業者のCSR事業を企画・調整する事業(社会的ニーズの発掘、その充足のためのノウハウ・技術・設備・資金・人脈のコーディネート、分野間の連携事業企画など)</p> <p>②人材育成・派遣事業(企業の人材ニーズの発掘と取組②により育成された人材の派遣など)</p> <p>③地域資源の活用に向けた新サービス・商品の創出、試験提供・テスト販売等の企画・代行業(いわゆるオープンソース型で地域の英知を結集させ地域全体の底上げを図る手法の確立)</p> <p>・また、上記収益事業を通じて、さらにまちづくり活動のコーディネート機能を向上させ、同様のイベント事業の連携・相乗効果により、持続的なまちづくり活動を展開する手法を構築する。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容:まちづくり会社設立の検討 実施時期: 毎週3時間 矢部・藤代・井内・小田の4人でまちづくり会社の方向性に関して協議 実施場所: 徳島大学総合科学部矢部研究室</p> <p>取組の結果 まずは、「徳島まちづくり役場設立準備室」として、事業検討を開始。毎月の検討会を重ねる中で、徳島県「e-とくしま推進財団」が「徳島県内の中小企業ICT能力を向上する研修」をするための人材研究事業を募集しているのを知り応募、受託した。現在、本事業とは別予算であるが、商店街メンバーにICT研修を実施し、今後の中心市街地活性化に寄与するための人材教育を行っている。 また、まちづくり会社としての事業スキームを検討した結果、一般社団法人という形式が事業ペースでおこなってゆくにはベストであると判断し、2009年12月22日に、正式名称、一般社団法人「まちづくり役場徳島」として設立。今後は、このまちづくり会社を中心に、元気再生事業で取り組んでいる事業の継続の検討を行っている。取組1に関しては、製品開発の目処がたちつつある「すだちシャーベットの販売業務」、取組2ではなく。上述のように、サテライト教室事業に関しては、徳島市役所が平成22年度事業として予算化を目指しており、本まちづくり会社が請け負う予定である。 また、徳島県、徳島市が公募する中心市街地活性化に関連する事業にも応募してゆく予定である。現在、商店街活性化に関わる事業へのアプライを検討している。</p>

(7)実施体制	平成21年度の取組実施における体制・役割分担		当初計画からの変更点	
	<p>「チャレンジ！とくしま賑わいプロジェクト」推進協議会を事業主体とし、その事務局は、徳島県商店街振興組合連合会とする。</p> <p>構成団体は、徳島県商店街振興組合連合会・青年部、NPO法人TOKUSHIMA雪花菜工房、徳島商工会議所、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部政策シミュレーション研究室、徳島県、徳島市、徳島バス㈱、㈱あわわである。</p> <p>先述の通り、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地商店街の衰退は激しく、地元商店街ではその活性化に日夜取り組んでいるところであるし、</li> <li>・県、市とも地域の公共交通機関の確保は重要課題と位置付け、その取組を図っているところでもあり、</li> </ul> <p>地域一体となって、先述の取組を進めていく気運が高まっているところである。</p>		<p>平成21年9月3日に開催された総会において、小松島市が協議会会員に参画することとなった。</p> <p>平成22年2月4日に開催された総会において、(社)まちづくり役場徳島が協議会会員に参画することとなった。</p>	
(8)取組により得られた成果	○成果1→	中心市街地の賑わい創出、中心市街地来訪者の増加		
		H20	H21(当初予定していた目標)	
		10,138人 2,557人	12,000人(中心市街地への流入者の増加) 4,000人(新町橋の往来者数)	
		H21(実際に得られた成果)		
	<p>定期的にボードウォークに「新徳島ブランド」を提供するパラソル屋台を開催し、集客を目指す計画は、ボードウォークを管理する東船場商店街振興組合より飲食店の出店を原則禁止とする通達により、現在休止状態である。「新徳島ブランド」として現在開発している「すだち君アイス」は、今後中心市街地商店街で販売することで、集客の目玉としたいと考えている。そのため、目標に関しての実績の数値はない。</p>			
(8)取組により得られた成果	○成果2→	「バスに乗ろう、交通エコライフ」キャンペーンによる集客		
		H20	H21(当初予定していた目標)	
	— 人		イベント集客数 1,000人 新町橋往来者数 4,000人	
		H21(実際に得られた成果)		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年9月27日開催のイベント集客数 1,200人</li> <li>・平成21年9月27日に開催されたイベント関連の参加者の概算は当日行われた通行量調査の結果以下の通り</li> <li>・平成21年9月27日新町橋東側(午前10時～午後7時)歩行者通行量は約2000人</li> <li>・平成21年11月3日新町橋東側(午前10時～午後7時)歩行者通行量は約5000人</li> </ul>		
		<p>○成果3→ 地域経済活性化の担い手、次世代の人材育成</p>		
	H20	H21(当初予定していた目標)		
—		「(仮称)徳島まちづくり会社」設立準備		
	H21(実際に得られた成果)			
	<p>平成21年12月22日に一般社団法人「まちづくり役場徳島」を設立。取組1で商品化について取り組んだ「すだち君アイス」の東京で開催されるスーパーマーケットトレードショーへの出展を手伝い、今後の販売を請け負う予定。また、取組②まちなかサテライト教室事業を、徳島市が平成22年度「まちなかキャンパス事業」事業として継承予定。その際、講義などのコーディネート事業を「まちづくり役場徳島」が請け負う予定である。</p>			

	○その他の成果→	
	H20	H21(実際に得られた成果)
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>・徳島県商店街振興組合青年部が任意団体であるために、親会である徳島県商店街振興組合連合会が事務局を委託している中央会に事務局を委託依頼したものの出来なかった。そのため、現在の事務局はメンバーがボランティアで行っている。事務局機能の弱さは当初から分かっていたので、取組4でまちづくり会社設立を目指した。今後、まちづくり会社を中心に事業展開を行ってゆく。</p> <p>・当初、中心市街地のにぎわい創出の目玉と考えていた、ボードウォークでのパラソル屋台事業が、ボードウォークを管理している東船場商店街振興組合からの通達により飲食店出店が不可能となり、企画が休止に追い込まれることは想像できなかった。現在は、東船場商店街振興組合と協議中であり、早期の解決を図りたいと考えている。</p> <p>・サテライト教室として使っている空き店舗の形状が必ずしも授業向きではなく、設備もないため利用に予想外の手間がかかった。中心市街地への集客が目的であるので、必ずしも空き店舗利用にこだわらず、既存店の活用なども視野に入れて、サテライト教室授業を展開してゆきたい。</p> <p>・当初、バス会社があまり協力的ではなかったが、会議を通じて意識が共有され、積極的に参加してくれるようになった。バス内の広告を利用するなど、今後は広報を積極展開し、バス会社との連携を今後も継続してゆきたい。</p>	
(10)平成22年度以降の活動の見込み	<p>当初提案に予定していた平成22年度以降の展開</p> <p>まちづくり会社を設立し、本事業をまちづくり会社中心に運営してゆく</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成22年度以降の活動の見込み</p> <p>一般社団法人「まちづくり役場徳島」というまちづくり会社を設立し、本事業で開発した「すだち君アイス」の販売促進、市役所と協働してのまちなかサテライト教室の継続を行ってゆく。100円バス事業に関しても、まちづくり会社の事業として、継続の方向で考えている。</p>